

平成 22 年度 教育課程編成にあたって

中 技術・家庭(家庭分野)

1 平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

- ① 分野の目標を踏まえ、生徒や学校、地域の実態に応じて、家庭分野ではぐくみたい生徒の姿を明確にする。3 学年間を見通した指導計画を作成し指導の流れを考え、題材を構成する。
- ② 各題材に適切な授業時数を割り振る(「ガイダンス」「生活の課題と実践」を忘れずに設定)。
- ③ 指導すべき内容に漏れがないかを指導内容確認表などを用いて確認する。

(2) 単元や教材の開発

新しい学習内容を踏まえた題材の開発を図る。

「ガイダンス」「幼児との触れ合い」「地域の食文化」「安全に重点をおいた室内環境の整え方」「生活を豊かにする物の製作」等

(3) 配慮すべきこと

- ① 新学習指導要領に対応した教材整備の確認とともに、学習環境の整備に努める。
- ② 実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習の重視とともに、言語活動の充実を図る。

2 教育課程編成上、参考となる取組例

(1) 生活に活用できる知識を確実に身に付ける例

栄養や食品群、旬などについて身近な食品と結び付ける。グラフや統計などの資料を活用して考えさせる。

(2) 実生活に即して、効果的に栄養素に関する理解を深める例

栄養の摂り方や食品の特徴などについて、学校給食の時間等を利用し、日常的に触れる。

(3) 望ましい献立を工夫する力を身に付けさせる例

学習した栄養や食品の知識を活用して、1 日分の献立に不足している栄養素やそれを補うような課題解決の場面を設定する。

(4) 学んだ知識を調理などの実践に生かしていく能力と態度を養う例

栄養や食品の献立の学習を調理と一体化させる題材構成の工夫をする。

(5) 個々の生徒の技能の習得を図る例

グループ調理を行う場合でも、基礎的な技能については一人一人に体験させ、個に応じた指導の工夫を図る。また、学んだことが家庭での実践につながるような工夫に配慮する。

(6) 学んだ調理の基礎的・基本的な技術が他の生活場面での応用につながるようにする例

材料の厚さと加熱時間の関係や、材料の種類や大きさに応じた効果的で安全な切り方などを実習の中で考える工夫をする。

(7) 小学校で学習した内容の定着を図る例

生徒の実態を把握し、不十分な知識や技能については中学校でも再度取り上げ確実に習得させ、小中高の連続性と系統性を重視しながら指導する。

3 教育課程編成上の Q&A

Q1 「布を用いた物の製作」については、どのように扱えばよいか。

A1 主として内容 C(1)と関連を図り、補修の技術を生かした物を取扱う。その際も小学校の学習を踏まえ、手縫いだけでなくミシン縫いに関する基礎的な知識や技術の定着を図ることができるようにする。小学校で学習した目的に応じた縫い方の基礎を生かし、まつり縫いなどの補修の技術が生かせるように配慮した布を用いた物の製作が望ましい。具体的には安全で快適な生活を送るために必要な物として防災グッズや内容 D との関連を図り、不要な物を利用したりリフォーム、簡単な衣服の製作などが考えられる。

Q2 「幼児との触れ合い」をどのように実践したらよいか。

A2 この学習では、地域社会の実態や生活環境の違いに左右される。幼稚園や保育所等の施設との事前の打合せを十分に行い、幼児及び生徒の安全に配慮して行う。可能な限り直接的な体験ができるようにする。実態に応じては、子育て支援センターや育児サークルなどでの触れ合い、親子を教室に招くなどの方法も考えられる。